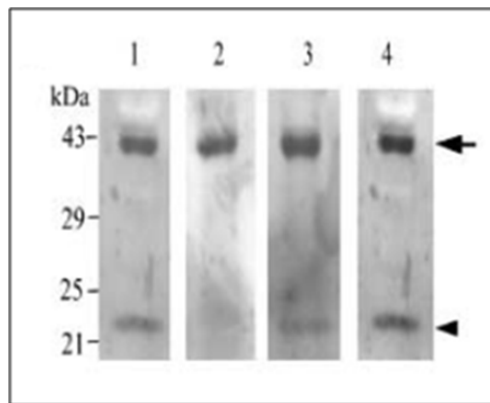


ウェブサイトでの画像指摘に関する報告

画像不正の可能性が指摘されている論文は *Cancer Research* 66: 9913-9920, 2006 で、2点 (Figure 4C と Figure 5C) に関して指摘を受けてきました。これらのうち、Figure 5C に関して報告いたします。

指摘では、論文 Figure 5C (下図 1) のレーン 1 とレーン 4 のバンドが類似しているとのこと。実際、論文をみるときわめて類似しており、実験ノートに保存されていたイムノブロット画像と比較・検討した結果、両者は同一のレーンが誤って使用されたことが判明しました。以下にその詳細を説明します。

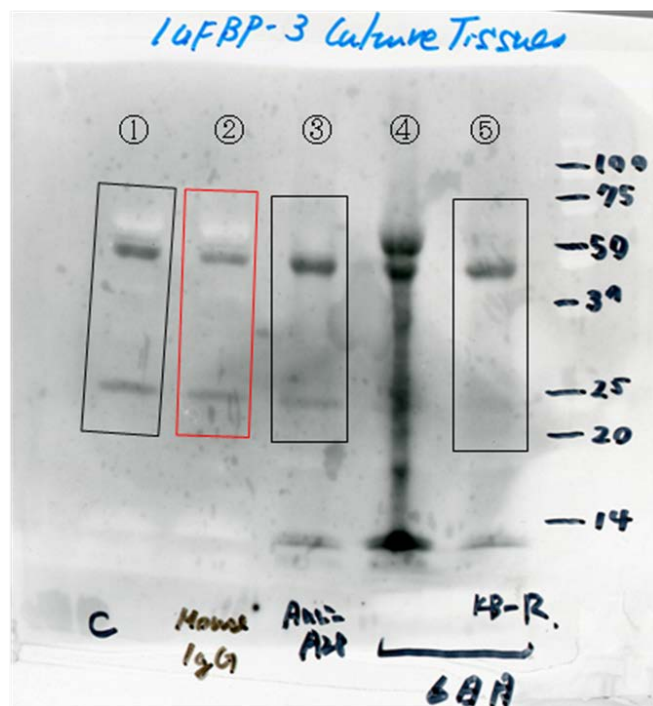
(図 1) Figure 5C



(図 1) Figure 5C の説明：レーン 1 は buffer control、レーン 2 は ADAM 阻害剤処理、レーン 3 は抗 ADAM28 中和抗体処理、レーン 4 は nonimmune mouse IgG 処理。

Figure 5C は、2005 年 3 月 4 日に行われた実験のイムノブロット元図画像 (下図 2) より作成されました。本実験ではヒト乳癌組織を 5 等分し、それぞれの組織を①ADAM 阻害剤の溶剤 (buffer control)、②nonimmune mouse IgG (5 μ g/ml)、③抗 ADAM28 中和抗体 (5 μ g/ml)、④ADAM 阻害剤 (1 μ M KB-R7785)、⑤ADAM 阻害剤 (1 μ M KB-R7785) の存在下で器官培養し、乳癌組織より培養液中に分泌された IGFBP-3 をイムノブロットにより検討しました。④のサンプルでは、おそらく乳癌組織からの血液成分混入のため、電気泳動がうまく流れておらず、本サンプルは解析不能と判断しました。露光時間によりバンドの濃さが異なった複数のイムノブロット元図画像を取り込み、各レーンを枠付けした部位で切断し、これらを再配置して作成しました。その際に、②nonimmune mouse IgG で処理した画像 (赤枠で囲ったレーン) を入れるべきところに①buffer control を誤って 2 度使用してしまったものです。

(図2) イムノブロット元図画像



下図3に示すように、論文 Figure 5C (図1) のレーン4の位置に②nonimmune IgGの結果(赤枠)を挿入し直すことで、正しい図に修正することができます。なお、本実験は、IGFBP-3分解率(IGFBP-3分解産物量/総IGFBP-3分泌量)がADAM阻害剤とADAM28中和抗体で抑制されることを示す実験であり、図の訂正により実験結果に変化はありません。また、本図に関する訂正文の掲載をCancer Research誌に依頼中です。

(図3) 訂正後の図

